

「第四次狛江市子ども読書活動推進計画」 パブリックコメント及び市民説明会の実施結果について

1. 実施概要

実施期間 令和4年2月1日（火）から令和4年3月3日（木）まで
 公表方法 広報こまえ（2月1日号）、市ホームページ、図書館窓口
 提出方法 書面提出、郵送、FAX、電子メール、市HP専用フォーム
 対象者 市内在住、在学、在勤者

2. 意見等件数

提出者数：9名
 提出件数：13件（書面提出9件、電子メール3件、HPフォーム1件）

※意見等及び市の取扱方針は下記4のとおり

※計画の変更点は下線部分のとおり

3. 市民説明会の開催結果

2月6日（日）午後2時 中央公民館地下ホール 参加者3名

2月8日（火）午後7時 防災センター4階会議室 参加者5名

※寄せられた本計画への主な意見等及び回答は下記5のとおり

4. パブリックコメント意見等及び市の取扱方針について

ご意見等	市の取扱方針
<p>資料内にもあるが、コロナ影響以外でもライフスタイルの変化に追従した機会の提供・同様に周知活動や方法に更に一考の余地ありと感じる。</p> <p>手間や時間的な制約のある中で、効率の良い手法の模索は必要と思う。</p> <p>一方、「紙の本」に触れる機会を喪失させない工夫もあるとよい。</p> <p>公共施設の一角に絵本コーナー的なブースの設置などにとどまらず、声優の読み聞かせや作者との接点や読み方の研究などから派生する機会の創出や、例えば中高部活の延長で幼小学校ほの読み聞かせ体験など、イベント要素も含んだもの</p>	<p>【P.6】第2章4「子どもの読書環境を取り巻く環境変化への対応」にも記載しているとおり、子どもたちの興味関心に寄り添いながら読書推進のアプローチに取り組むことが必要であると捉えています。</p> <p><u>【P.24】第4章5（4）説明文中に、「より子どもたちの興味関心に寄り添った形での行事イベントや講座等の実施を工夫する」旨を追記するとともに、「(ウ) 先進的事例等の情報収集に努め、各施設の取組とも連携し、より子どもたちの読書意欲を喚起する取組を検討する」旨を追記しました。</u></p>

<p>はどうだろうか。</p>	<p>ご意見を参考にさせていただき、逐次必要な対策の検討と実施に取り組みます。</p>
<p>図書館や保育園・学校などで、子どもや親の読書活動推進の為に、様々な取り組みをしていることを知りました。</p> <p>おすすめの本が、実際に手にとれる、すぐに借りられるようになっていて、何を読んだら良いかわからない、ゆっくり選ぶ時間がない子どもには良いと思いました。絵本読み聞かせのグループとしては(コロナ禍では難しいのですが)保育園・学校などでの読み聞かせの機会ができれば嬉しいです。</p>	<p>【P.13】第4章1(1)⑤(ア)等にも記載のとおり、現在図書館では推薦図書リストに掲載された本を展示し、すぐに借りられるコーナーを設置しています。また、【P.18】第4章2(2)①(ウ)に記載の取組等を進め、より子どもたちの身近な場所に本を充実させるよう努めます。</p> <p>また、【P.23】第4章4(1)に記載のとおり、地域の中で活動いただいている団体の把握に努め、子ども関連施設に情報が届く仕組みを検討します。</p>
<p>「りぷりんと・狛江かわせみ」という絵本読み聞かせシニアボランティアのメンバーです。子どもたちが絵本の楽しさや作者の思いを感じ、豊かな心を育むとともに、世代間の交流もできたらと思って活動しています。</p> <p>「子ども読書活動推進計画」のポイントに「家庭、地域、学校等との連携による行政と市民との協働」が掲げられていることは、とても大切なことと思います。各学校や図書館等でさまざまな意欲的な取り組みが行われていると思いますが、私たちに何かお手伝いできることがあればと思っています。</p>	<p>地域の皆様、ご家庭や各施設と連携して、市民の皆様のご協力の下、子どもの読書活動を推進することは重要なことであると考えています。</p> <p>【P.23】第4章4(1)に記載のとおり、地域で活動するおはなしグループ、ボランティア団体との連携を進めていきますので、ご協力をいただきますようお願いいたします。</p>
<p>図書館バーコードラベル貼付位置について</p> <p>作者を敬う気持ちが損なわれていると感じます。一冊の本が多くの手により作られ、その本を大事に扱うことを言葉だけでなく繋げてほしいと思います。</p>	<p>図書に貼付する資料バーコードにつきましては、複数の施設で効率的に読み取り処理ができるよう貼付する位置を定めています。今後の取り扱いを検討する際の参考とさせていただきます。</p>
<p>団体貸出について</p>	<p>団体貸出につきましては、一般の利用</p>

<p>輪読のために同じ絵本を2冊以上貸出しして頂きたいです。また読んだ後観客の子どもとその本を再度一緒に読むことは面白いと思います。</p>	<p>者より貸出期間が長いため、同一資料を複数貸出することはご遠慮いただいています。【P.15】第4章1(2)⑤(ア)等に記載のとおり、今後図書館資料の充実に努めていきますので、その際の参考とさせていただきます。</p>
<p>子ども達の読書向上には、学校、家庭だけでなく、地域の読書環境も充実していることが大事だと思います。昨年より絵本読み聞かせの会「りぷりんと狛江かわせみ」に参加するようになり、中央図書館だけではなく、地域センターの図書室も利用するようになりました。コロナ禍ということもあり、あまり利用されていないように感じました。もう少し落ち着いたら地域センターでの読み聞かせなどできないかなと思いました。</p>	<p>近年図書館をはじめ各施設では新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため大きな影響が出ています。【P.24】第4章5(4)に記載のとおり、感染予防対策を図りつつ利用の促進に努めるとともに、【P.23】第4章4(4)のとおり、各施設間での情報共有を行い、地域の中の施設においても読書活動の推進に取り組みます。</p> <p>また、【P.23】第4章4(1)に記載のとおり、地域で活動するおはなしグループ、ボランティア団体との連携を進めていきますので、ご協力をいただきますようお願いいたします。</p>
<p>絵本読み聞かせで活動していますが、このコロナかでもあり活動は限られています。</p> <p>保育園、幼稚園、小学校に読み聞かせの場所があればと思います。小さい子供達にとって、おじいちゃん、おばあちゃんとのふれ合いも良いと思います。</p>	<p>【P.23】第4章4(1)に記載のとおり、地域の中で活動いただいている団体の把握に努め、子ども関連施設に情報が届く仕組みを検討します。</p>
<p>P.12②ブックスタート事業の継続(ア)について</p> <p>ただ単に”読み聞かせを行い”というよりは、実際に赤ちゃんに読み聞かせをしつつ、赤ちゃんの反応を見させていただいて、絵本の読み聞かせの楽しさ、大切さ、3・4ヶ月の赤ちゃんに合う絵本の選び方などをお父様、お母様たちにお伝えしているので、そういったことも加えていただ</p>	<p><u>【P.12】第4章1(1)②(ア)に、「絵本を介して親子が向き合うきっかけを作り、心触れ合うひとときとなるよう努めます。」と追記しました。</u></p>

<p>けると幸いです。</p>	
<p>P. 14 (キ) 絵本や児童向けの電子書籍の収集について</p> <p>乳幼児の幼い脳にとって人を介さない液晶画面で絵本を見ることは好ましくないと思う。ことばを発する前から紙の絵本にさわり、大好きな人に読んでもらうことが子ども読書活動の大きな土台となると思っている。</p> <p>※「デジタルで読む脳×紙の本で読む脳」 メアリアン・ウルフ著 太田 直子訳</p>	<p>【P. 13】第4章1(1)⑤の各項目に記載のとおり、紙の本の充実と、それらを活用したおはなし会等の事業実施には引き続き取り組みますが、併せて図書館の休館時や外出自粛が求められるような状況下においても資料を提供することができる電子書籍も活用し、新しい生活様式に対応した子どもの読書環境の整備を図ります。</p>
<p>第四次の計画に期待しています。アンケートも分かりやすくまとめてあり、実践レポートでは小・中学校の取りくみがよく分かりました。</p> <p>このような図書館の活動を継続していくためには（計画を進めていくためには）、新図書館計画で予定されている中央図書館休館期間にも、子どもたちの読書活動を止めないことが必要だと思えます。例えば、代替の施設での貸出しや、おはなし会の継続をぜひ考えてほしいです。その間、地域センターの図書室を午前中から開けることは最低限必要かと思えます。2年ものブランクは、市民の（子どもたちの）足を図書館から遠ざけてしまうと思えます。</p>	<p>【P. 10】第3章のポイント「新図書館への移行期間における図書館事業の継続」に記載のとおり、休館期間においても子ども読書活動推進事業・子ども読書啓発事業等の関連事業を継続し、子ども読書活動を推進していけるよう、子ども関連施設や所管部局との一層の連携を図ります。</p> <p>また、【P. 25】第4章7に記載のとおり、本計画の内容も踏まえて新図書館整備基本構想の検討を進めます。</p>
<p>図書館以外の施設への読書への取組のヒアリング、子どもや未就学児のお母さんへのアンケートなどきめ細かい取組は貴重だと思えます。</p> <p>周囲を気にせず使える（音、ベビーカーなど）独立したこども室を、子どもも大人もゆったりできるスペースをといた声を生かした新館建設を望みます。</p>	<p>ご意見を参考にさせていただき、【P. 25】第4章7に記載のとおり、本計画の内容も踏まえて新図書館整備基本構想の検討を進めます。</p>
<p>地域センター図書室に対する支援とバ</p>	<p>【P. 10】第3章のポイント「家庭、地域、</p>

<p>ックアップを強化してください。</p> <p>どこに住んでいても等しいサービスが受けられる全域サービスは重要なことで、新館構想でも語られるネットワーク化、具体的には各図書室への支援とバックアップが重要だと思います。地域センター図書室では子どもへのサービス（利用者の約半数）はだいで、大人と違って子どもの場合、本を置いておくだけでなく、読み聞かせやお話など職員（人）が手助けすることが求められます、関連施設職員の情報共有だけでは不十分で、研修（選書、子どもへのサービス）の実施を望みます。またおはなし会の実施回数にバラツキがあるようで、少ない図書室には図書館がお話のグループをあっせんするなど、支援強化を望みます。</p> <p>また利用者から要望のある午前中からの開館は通年で実施を検討すべきかと思っています。</p>	<p>学校等の連携による行政と市民との協働」にも記載のとおり、各機関が協力し、地域の方々との協働により読書活動を推進していくことが必要であると捉えています。</p> <p>【P. 23】第4章4（4）に記載の情報共有に加え、【P. 23】第4章4（3）にも記載のとおり、子ども関連施設や公民館・地域センターと連携して講座や講演会を実施し、職員の資質向上を図ります。また、【P. 23】第4章4（1）に記載のとおり、地域の中で活動いただいている団体の把握に努め、各図書室に情報が届く仕組みを検討します。</p>
<p>電子書籍の活用は慎重に、子どもへのサービス低下をもたらさないようにしてください。</p> <p>電子書籍は来館せずに利用できる、音声読み上げや文字の拡大といった選択肢が広がるなどメリットは大きい。また所蔵状況、利用状況（よく読まれる電子書籍）からヤングアダルト向けは比較的充実していますし、利用されています。</p> <p>しかし所蔵状況から児童書は量的に少ない（特に絵本）（中央図書館の構成比を下回る）だけでなく質的にも一部に限定されています（参加出版社が少なく、福音館など良心的な出版社は不参加）。また上で述べた図書館員による読み聞かせやお話し会のような手助けも受けられませ</p>	<p>【P. 13】第4章1（1）⑤の各項目に記載のとおり、紙の本の充実と、それらを活用したおはなし会等の事業実施には引き続き取り組みますが、併せて図書館の休館時や外出自粛が求められるような状況下においても資料を提供することができる電子書籍も活用し、新しい生活様式に対応した子どもの読書環境の整備を図ります。</p>

<p>ん。</p> <p>こうした実態を踏まえ、幼児から小学生までの子どもへのキメ細かいサービスの継続を望みます。</p>	
---	--

5. 市民説明会における本計画への主な意見等及び回答について

ご意見等の概要	回答
<p>選書作業に関する記載がないが、各図書室の担当者が情報交換する機会にもなっており、大きな意味で子ども読書活動の推進に何らかの効果を生んでいるのではないかとも考えられる。そうしたものは推進計画に載せていくべきものなのか。</p>	<p>【P. 23】第4章4(4)に記載のとおり、図書関連施設職員の情報共有等の機会を通じ、子ども読書活動の推進に取り組んでいきます。</p>
<p>6頁「4. 意識調査等と課題」について、各調査の結果分析と課題や対応策として整理した事項は。</p>	<p>関連部署や施設への調査においては、子どもの読書に対する課題について意識の乖離している部分があると考えています。今後は進捗管理・成果検証を図書館で担うとしておりますが、そうした取組を通じ問題意識の統一を図り、対策を推進していきます。</p> <p>市内の公立学校に通う小中学生への調査においては、この3か月間で学校の授業以外で読書をしたかとの設問に対し、「読んでいない」と回答した割合が小学6年生から中学生にかけて増加していく傾向が見られ、その理由として「興味がない」という回答が最も多くなっています。また学校の授業以外で学校図書館や公立図書館などを利用したかどうかの設問について、「いいえ」と回答した割合が小学5年生以上で高い数字となっており、その理由として「部活動や家で過ごす」、「友達と遊ぶ時間が多い」とする回答が突出して多く、様々な理由で忙しくなるにつ</p>

	<p>れ図書館や読書から離れていく傾向が読み取れます。学校等の施設とも連携し、紙の書籍の充実に加えて電子媒体等も活用し、子どもたちの興味関心に寄り添いながら読書推進のアプローチに取り組んでいきます。</p> <p>未就学児の保護者の方に対する調査では、読書に対する関心は非常に高い一方、本を選ぶ際には本屋で探すという回答が最も多く、また公共図書館や図書室をよく利用するかという設問については全体の4割以上が「いいえ」と回答しており、本に対する興味は高いが図書館の利用には結びついていないと分析しています。特におはなし会に関しては「参加したことがある」と回答している方は全体の3割にも満たず、その理由としては「日時の都合が合わない」、「事業のことを知らなかった」と回答された割合が多くなっています。おはなし会は、家庭以外での読み聞かせを体験できる貴重な場であるだけでなく、また、保護者の方にとっては読み聞かせの手法を周知する貴重な場ともなっています。より参加していただけるよう行事の実施を工夫する他、引き続き効果的な周知に取り組む必要があると考えています。</p>
<p>計画の位置付けは、狛江市の基本計画等を踏まえて存在するとあるが、2頁の表を見ると狛江市基本構想や狛江市教育振興基本計画、そして個別の計画の下に位置するということなのか。またそうした上位計画から抽出された課題を計画として捉えればよいのか。</p> <p>一方1頁には子どもの読書活動の推進に関する法律に基づくとあるが、国の方</p>	<p>子どもの読書活動の推進に関する法律には「その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定」するよう規定されています。</p> <p>狛江市の基本計画、教育振興基本計画等では、地域の課題から各施策や施策展開の方向性を定めており、これに基づいて本計画を定めています。</p>

<p>向性に基づいて立てられたものなのか。</p>	
<p>この3か月間で学校以外での読書を行っていない子どもの比率が非常に高かったことについて、図書館側からの理由はどういったことが考えられるか。対策をとるとかアプローチに取り組むとは書かれているが、具体的にどんなことを考えているのかが示されてあると良いと感じる。</p> <p>また市内公立学校に関しては連携していけると思うが、狛江市内には私立の学校に通っている子も多く、また不登校に陥っている子どもや、特別支援学校や学級に通っている子どももいる。どの子どもたちにも平等に読書活動の推進に繋がる体制づくりを目指してもらいたい。</p>	<p>この問題についての詳細な分析にはまだ至っておりません。現状は情報収集に努めており、今の子どもたちが読書に代わって何をするようになったのか、それに基づいてどういう対策を行っていくのかについては今後検討を進めますが、 【P.25】第4章6に記載のとおり、関連組織と連携して取組の成果検証や必要な対策を検討します。</p>
<p>9頁に「読書活動に関わる人材を育成するための講習会等についても、積極的に取り組むことが求められる」と記載されているが、これは職員に対しての研修なのか、読み聞かせ等を行っている団体に対する研修であるのか。先ほど挙げられた選書に関わる研修や講習なども含まれるのか。</p>	<p>職員の他、市内で読み聞かせ等の読書活動に携わっている方々を含め「子どもの読書活動に関わる人材」と記載しています。内容につきましては、選書等の図書館の基本的な業務も含めて人材育成を図ります。</p>
<p>狛江市の小中学校は、早くから全ての小中学校に学校司書を配置しており、素晴らしい取組だと思う。もっと子どもたちが活用できるように学校図書館を充実させてほしい。</p>	<p>【P.18】第4章2(2)に記載のとおり、引き続き学校図書館の更なる充実に取り組みます。</p>
<p>読書活動実践レポートには記載がないが、公立以外の幼稚園等との連携はあるか。</p>	<p>私立の施設等との連携につきましては、現在は団体貸出やリサイクル図書配布のご案内等をしています。今後、更に充実した連携ができるよう検討したいと考えています。</p>